

## 実践野外講習：ビバーク時のツェルトの活用法

お花見に合わせて行う今回の野外講習のテーマは「ツェルトの活用法」です。

ツェルトは、普段は非常時に備えた装備で、ザックの底に忍ばせて持つものです。問題なく山行が終われば、その出番もありません。しかし、非常事態が山行中に発生したとして、その使用法を知っているかどうか、死命を制することがあります。

◎日時・場所：2018年4月1日午前9時半～11時・北柏ふるさと公園

### 1. ツェルトの出番

ツェルトは「簡易テント」とも言われ、本格的なテントとやや異なります。通常、テントよりも軽く、構造・強度も軟弱であって、本格的で強固な「居住空間」の確保としては弱点があります。しかし、例えば、行程の途中で急激な強い風雨・寒波に襲われたときや、道迷いや怪我などでビバークをしなければいけなくなったときになど、「一時的に危急をしのぐ」という目的でなら、十分な快適度などはなくとも、「生き延びる（survive）」という目的のためには、簡易・軽量というメリットと併せて考慮すべき、優れたアイテムです。

### 2. ツェルトとテントの比較（⇒表1）

表1 ツェルトとテントの特徴比較

	テント	ツェルト
重さ	重い	軽い（テントに比して1/2～1/3）
強度	大	小（テントに比して強風には1/2以下）
快適性・保温性	大	小（不安定、狭小、防寒・防水性低い）
組み立て	簡単／一定の規格に従うだけ	難しい／多用途の組み立て・使用法あり
価格	高価	低価

### 3. ツェルトの用途（⇒表2）

表2 ツェルトの用途

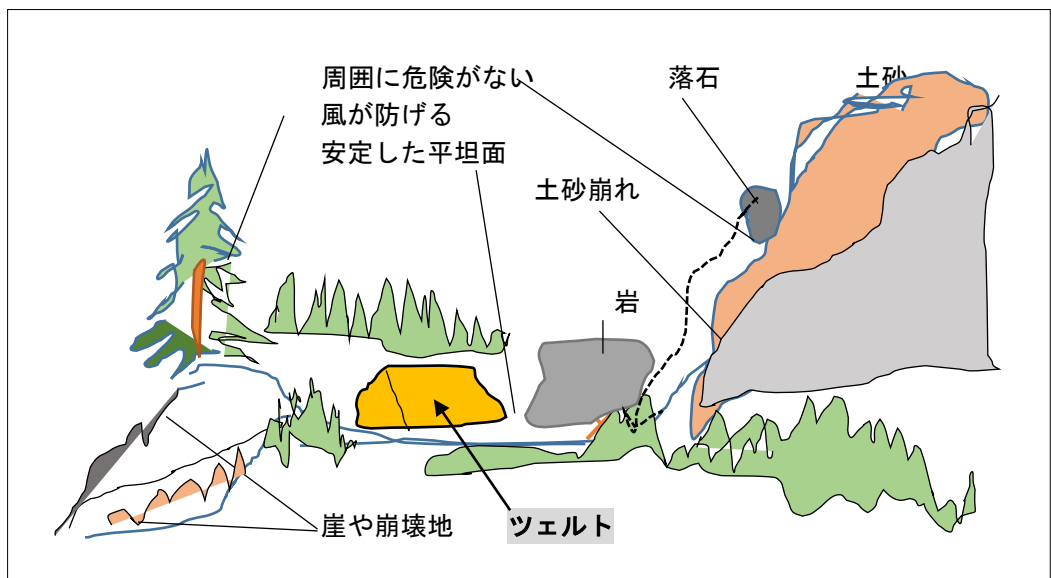
用途	内容	付属部品
1) 幕営	テント（簡易テント）としての生活空間の確保	ツェルト、ストック、補助ロープ、細引き、ペグ、マットなど
2) 防寒・防風	風よけ、防寒（かぶるだけ）	ツェルト、ストック、マットなど
3) 担架	事故者の運搬	ツェルト、補助ロープ、ストックなど

#### 4. ツェルトの設営に必要な条件

例えば、同行者が大けがをしたとか、道迷いを起こした、といった場合など登山における非常時が事前に予測できないのと同じように、ツェルトの出番も見通せませんが、確率上、誰にも起こりうる可能性があり、ツェルトは“保険”として携帯します。

そのような状況にあっても、ツェルトを使ってビバークをするのに、最低の条件があります。そのときの事態の緊急度や、場所・時間などで判断します。

- 1) 場所（ロケーション）：できるだけ平坦地、周辺に危険をはらまない場所（崖っぷちや不安定な場所などでないこと）、さらには風が避けられるような地形や環境（窪状地形や周りの木々、樹林帯内）であること、など。
- 2) 時間：時間が比較的早ければ、その日の行動はまだ続けられます。一方、午後遅い時刻だと、行動をどうするか決断が必要になってきます。進行の先にビバーク地点

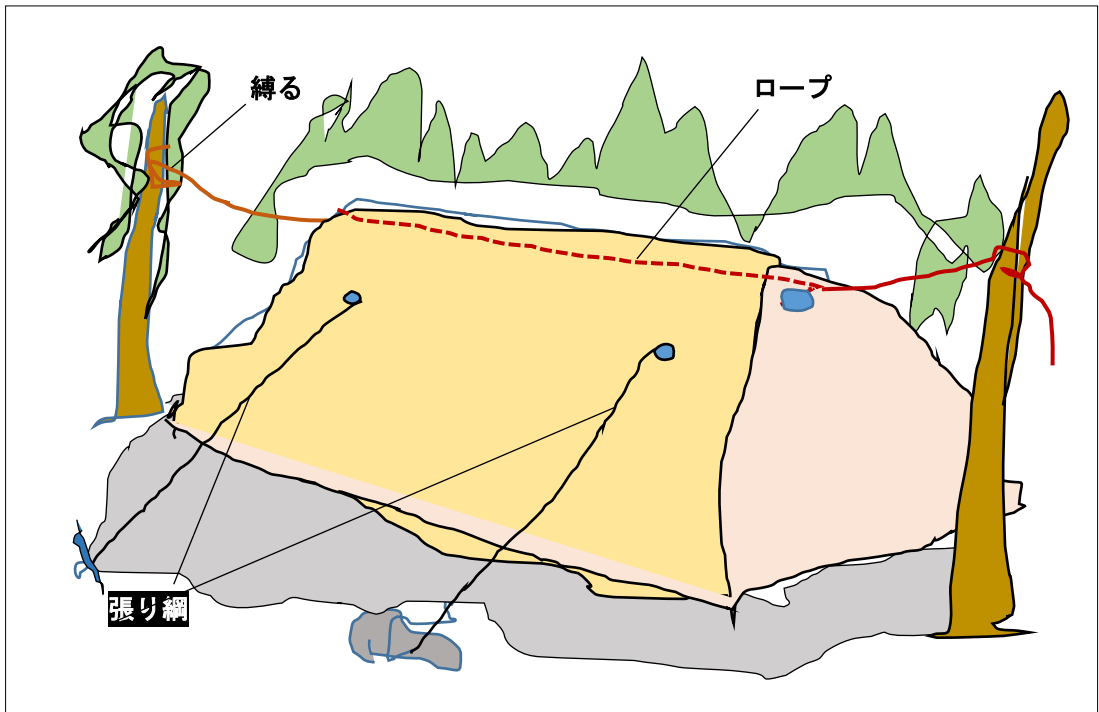


が見いだせなかった場合のために、進路に沿ってビバーク可能地帯は把握しておく。

- 3) 通信ができる地帯に近いこと：谷間や低い場所だと外部と連絡がとれないので、できれば尾根筋や展望のきく場所に近い地点を選びます。
- 4) 水の確保：通常、生活水は余分に持たないで行動しているので、ビバークの可能性が出てきた地点以降においては水を空き容器に確保するようにします。
- 5) 暖房：季節によっては焚火も有効で、枯れ木を集めます。

#### 5. ツェルトの設営

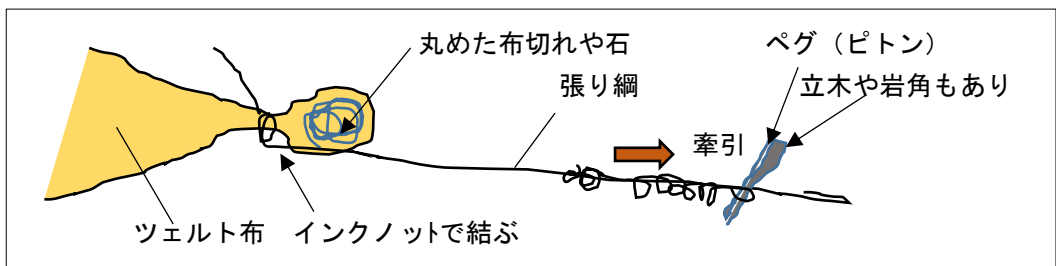
- 1) 場所の確保：上記の条件に合った場所を探します。もし崖に近いような場所なら、谷側に枝や石を積むなどして転落予防の“堰”を作ります。また、もし状況が許せば、一夜、安楽に横になれるように小枝・小石などを積んで平坦面を造成します。
- 2) プロテクション～バックアップ：風や傾斜きによってテントが移動しないようにツェルトを固定します。ロープがあれば、立木や岩角、ペグ類などから牽引して縛り、



細引きで地面に固定します。これをプロテクション（バックアップ）といいます。

3) 固定用付属品：ツェルトだけだったら、それをかぶるだけのことになり、一夜の快適な「生活空間」は得られませんが、これにロープ、ストック、張り綱（細引きの補助ロープ）、マットなどがあれば、ツェルトを周囲から牽引して幕内の空間を確保し、テントに匹敵するほどの快適な生存環境が確保できます。ロープを張ると、風に対して強度が格段に増します。なお、手持ちの使えるものは、何でも利用します。

テントが傾斜面に対して移動する危険のある場合は、逆（山側からの）牽引のためのロープや細引きを足して、動きを止める処置を施します。



4) 就寝の準備～就寝：下界に連絡して現状を伝えるとともに、同行者間で冷静に話し合って翌日の行動計画を組みます。あとは、できるだけ地面に小枝や葉っぱを敷き詰め、心地よい居場所を確保します。それから、食事をすませ、ありったけの衣類を着込み、ザックに足を突っ込んで、安定した姿勢で一夜が休めるような態勢で休みます。

遭難時のサバイバルは自然と人間との知恵比べで、これにツェルトが役立ちます。